

第88回スタディグループ分科会結果報告

運営委員長 村田耕治

(文責：阿部)

1. 開催日時 2020年12月14日(月) 14時30分～16時55分
2. 開催場所 文京区民センター 2階2-A会議室
3. テーマ 「監査役 With コロナ」
4. 発表者

リーダー/コーディネータ	王子エンジニアリング(株)	常勤監査役	田島 洋氏
メンバー	東京パワーテクノロジー(株)	常任監査役	松下洋二氏
	兼松コミュニケーションズ(株)	常勤監査役	並木雅史氏
	(株)キューブシステム	常勤監査役	中井淳夫氏
	朝日インタラクティブ(株)	非常勤監査役	黒須 仁氏
	王子ネピア(株)	常勤監査役	村田耕治氏
5. 出席者 会場参加15名(含む発表者)ほかに zoom での参加者28名 計43名
6. 配布資料 ディスカッション形式にて資料なし
7. 議事次第、意見交換
(前半 14:30～16:10):
 - 1) 村田運営委員長の開会挨拶に続き、田島氏から、テーマ選定の背景の説明と、5名の方から体験談を披露していただく旨、説明がありました。
 - 2) まず、松下様から、体験談(その1)の報告がありました。
 - ①会社の執行状況:2月下旬、対策本部設置(監査役も含む)。国、自治体の状況と社員状況を把握して対策を立案した。→本社テレワーク少なくとも、50%を目標。個人所有のパソコン使用。会合6名以下。
6月緊急事態の解除から戻り、11月には以前と変わらぬ状況に。しかし現況から、再度対策をとる。
 - ②監査役の活動:
8月からスタート、業務監査は例年と変化なし。千葉・神奈川の事業所は現地往査、遠隔地はズームにてヒアリング。文書類はメールで。→大きな問題は出ていない。十分対応しうる。但し、ズームでの対応は、個人的には現地の空気が読めず、雰囲気固くなる。
監査役の日常業務はテレワーク割合が多い時で、50%会社、50%自宅で、特段支障なし。
 - ③6月総会の問題点:経理は毎日出社し、決算もスケジュールどおり。会計監査人の会計監査、親会社が遅れたことにより、子会社群間に合わず。
期限伸ばしてくれの要請を受け入れたが、総会招集通知日と事業報告書計算書類の備置期間へ影響。
 - ④今後の課題:
 1. 3現主義はできるだけ守りたい。但し、人数減、事前準備の徹底等の工夫を。

2. テレワークの定着には内部統制上の問題も。
3. 社員の、特に若い人の、メンタル面も見ていかないといけない。

3) 次に2人目、体験談(その2)を並木さんから。

- ① 会社のコロナ対応: 対応チーム(人事・企画・医務室)で、対応マニュアルを作成。PCR検査の結果が出るたびに監査役にも報告が来る。時差出勤、出張の自粛、在宅勤務、会合自粛等。携帯販売部門はその事業者に従う。緊急事態解除後、販売部門は店の方に戻る。社長方針で6月以降仕事のやり方を可能な限り、本社・支店勤務はテレワークで。

② 監査役的活動

3月末まで通常どおり。7月～8月末まで在宅3日、出勤2日。9月以降は在宅2日、出勤3日に。

ノートパソコンは個人の所有物。社内ネットワークへのアクセス可。自宅で監査可能な状況にある。

基本的には昨年と変わらず、重要会議リアル開催。監査役も出社(都合の悪いときのみWEB)面談もリアルで。会計監査も、会計監査人と、同席の上、実施。

11月初め、会計監査人の要望もあり、支店往査を実施。監査役も同行した。

強化ポイントとして、

- ・代表取締役との意見交換スムーズに。積極的に。
- ・内部監査室の監査は7月以降再開。

が、九州支店、支店側からの抵抗感あり、社長に話して、地方支店往査をやめる。内部監査のやり方を考え、監査役も検討する。WEBでの会議に監査役も同席で実施。

- ・地方の支店監査はできていない。11月初めの2支店は同行し、面談もできたが、それ以降はできていない。基本的にはWEBヒアリングか。

遠隔地はリスクが高いため、従来から往査に力を入れてきたが、実施できず。

③ 課題

テレワークの環境(PC、インターネット)は個人に頼ってきた状況。一部会社からの貸与もあるが、台数に限りがあり全社員に対して構築できていない。

非販売部門は在宅が可能だが、販売部門は在宅できず。社員として統一されておらず、販売部門についてはケアが必要。

4) 続いて、体験談(その3)、中井氏より。

会社は、客先常駐社員が多数いるため、これらはその事務所内指示に従う。

- ① 2/21災害対策本部を立ち上げ、感染防止と社員の安全に重点。具体的には、在宅勤務の推奨、原則出張禁止、イベント参加自粛、マスク着用、原則WEB会議、通勤費見直し。時差勤務等。6月末に対策本部解消。7月以降も在宅勤務継続。

② 監査役としての対応

経営会議、取締役会等重要会議は、原則、リアルで参加。社外非常勤取締役との対話や各委員会への参加はWEB参加。

6月総会は予定通りリアルで実施。お土産はなし。昨年と同会場。出席者100名が10名に減。会計監査人(トーマツ)との意見交換はWEBで。8月にメンバーの交代があり、一度リアルで顔を合わせたものの、またWEBに戻るであろう。国内子会社への往査は行わず、質問票とWEBで実施。

③ 課題

- ・タイミングは難しいが、変えるところは変えていく必要がある。
- ・実棚など、現地、現物の対応が必要な確認作業は、写真とか、何らかの形で行う。
- ・中国上海子会社は、昨年度から手元現金(キャッシュ)を廃止した。日頃からリスク減を心がけること。
- ・在宅の労務管理が課題。社員アンケートを実施したところ、担当者は時間が効率的に使えるものの、中間管理職は負担増との回答多く、バランスのとれた勤務管理が課題である。

5) 続いて、体験談(その4)、黒須氏より。

3社の非常勤監査役を兼務。

- ・ある子会社は、個別注記表作成しておらず、6/30株主総会で議案保留し、計算書類の承認は7/13に継続会で行った。
- ・監査役の業務は全てズームで。社長にも会っていない子会社もある。
- ・交通費実費精算に変更。代わりにテレワーク手当を支給。就業規則を変更した。
- ・テレワークが主となったため、3社中2社でオンライン社員総会を開催。
- ・コロナ禍で有給5日の消化が進んでいない。
- ・会計監査はクラウドで。
- ・役員インタビューは監査計画に入っているものの、中間期はなし、期末に実施予定。
- ・内部監査は東京以外実査なし。代わりに社員全員へのアンケートと自由記述を実施した。

6) 最後に、体験談(その5)として、村田氏から。

- ① 7月スタートで年内に大方終了で進めていたが、2月末からコロナ対策。出張控え、監査法人の実地棚卸、北海道(苫小牧)に行けず。実地棚卸立会を本州の別工場に変更。
4/7以降出張、出勤控え。
営業は在宅。監査役はタブレット支給、自宅待機。
監査は3月末までにある程度は終了。決算締め、株主総会は通常どおり。
緊急事態解除後は11月半ばまで通常どおり。

② 監査役の監査活動

出張滞在を短くし、会食なし。

年内終わることを目指したが、11月末の福岡・岡山への出張は無事終了。先週の大阪・名古屋は、出張中止してオンライン監査に変更した。

必要な資料は事前に提出してもらい、オンラインでも意外にできることを確認した。現金実査はできないが、金庫の中身リストをもらうことで代行。資料を事前にもらうことで、かえって監査が要領よくできた。

但し、製造現場でオンライン監査ができるかというと、それは無理。

今後は、週1回程度の在宅勤務を推奨されている。

後半(16:15～16:50) 質疑応答

① コロナ禍下の監査役初年度監査の進め方について

7月に監査役に就任。内部監査室からは問題があった時のみ報告で、監査の結果わからず、内容把握できず。監査役側から追うしかない状況だった。従前は、常勤監査役がおらず、また、そうした風土もないのでこれから作る。

監査講評時にリモートでの同席に変更し、内容を把握するようにした。リモートでの同席だと、意見が出てくるところがいい。

- ② テレワーク状況下でのネットワークセキュリティについて
個人パソコンを使用している会社もあるようだが、情報セキュリティリスクの観点から言えば、会社として仕組みを構築する必要がある。
- ③ 海外子会社5社あり。往査できず、スマホの動画を撮って送ってもらう手もある。
- ④ 監査の講評会が実施されなくても、評価書(表)が手に入れば足りる。が、リモートで参加したほうが臨場感に勝る。表情もわかる。
- ⑤ 通勤手当変更については就業規則も変更した。
- ⑥ 往査に行かない選択なし、と思っていたが、オンラインで実効があがるものと、リアルでないといけないものがある。
毎年、固定的な監査の質問はオンラインでできるが、工場の安全問題、設備等、目で見ないと分からないところはやはりリアルでしかできない。ただ、かなりの部分はオンラインでいけるかもしれない。

以上